

## 牧師室から（2023.4.2）

3月26日の主日には静岡県宇佐美から、私どもの神学校の同級生であった牧師が休暇をとって、末のお子さんを連れて海老名教会の礼拝に出席してくれた。妻とはメールでやり取りしているのだが、実際に対面するのは2年ぶりである。実は前の犬であるアイネはこの家から頂いて来た。先日アイネの姉が亡くなって、4匹のきょうだいはその家族に一匹の雄と、茨城にもらわれていった一匹の雄がいるだけとなった。

日曜日礼拝が終わって、牧師館で一緒に食事をした。色々な話があったが、私が例の花の名前がスマホ写真で分かるアプリを持っていることを話したら、その友人が「それを人を写したらどうなるのかしら」と言った。私は以前、妻を写したことがあったが、スマホは判別できなかったと言った。そこでそばにいたメグを写したらどうなるだろうと思い、メグが横にいたので写してみた。そうしたらなんと認識したのである。結果は「トゲカビ」という茶色の針状の植物であった。おそらく赤柴メグの毛並みでそのように判別したのであろう。

そのような気を許した楽しい会話の中で、やはり地方の小さな教会を牧会する大変さをも聞いた。特に心に残ったのは、三年前、まだコロナ禍が始まった頃、近所に住む方の家族の一人がコロナにかかったそうだが、地方では感染者が稀であったし、小さな町での監視社会ではとてもそこに住めなくなり、引っ越さざるを得なかったというのである。それを聞いてなるほど、さもありなんと思った。その家族は戻ってきたのかと尋ねると、分からないそうである。借家だったらまだしも、持ち家だったらとても可哀想なことである。

現在は、コロナの危険度レベルも下がることとなり、既にマスク装着義務も緩和されつつ新しい局面に入ろうとしている。いよいよ新年度であるが、主のお守りの内に前進できるように願っている。

（鈴木淳一牧師）